



# 近江の古瓦 II 湖西・湖北

ここでは、和途川と花折峠とを結ぶ線より北を湖西とし、天野川流域以北を湖北とします。行政区画では、湖西は大津市葛川地区と滋賀郡および高島郡に、湖北は伊香郡、東浅井郡、長浜市および坂田郡に属する地域です。

## 湖西の古瓦

比良山系には、古くから比良三千坊などの言葉があるように、葛川の息障明王院をはじめ各所に山中寺院があったようです。三代實録には貞観9年(867)に比良山妙法・叡勝両精舎の名が見え、打見山では経塚が発見されています。しかし、この地域では瓦の報告がありません。恐らく檜皮葺などであったでしょう。

湖西地域で古瓦の出土が報ぜられているのは、新旭町安井川の大宝寺跡と堀川遺跡、今津町の酒波の3か所です。新旭町の薬園寺は続日本紀等にその名が現われますが、瓦の出土はありません。酒波では軒先瓦は発見されていないようです。堀川遺跡では、平安時代

に属すると思われる軒平瓦が出土し、平瓦の小破片も発見されましたが、これはこの地の阿弥陀寺のものと思われます。

大宝寺跡からは、白鳳時代や奈良時代に遡ると思われる瓦が出土していますが、この古瓦には二つのセットが考えられます。一つは、軒丸瓦は無子葉の単弁八葉で周縁がなく、弁は普通のものとは逆に中央がくぼんでいて、重弧文の軒平瓦とセットになります。これは現在、県下では類例が無いようですが、京都の広隆寺で六葉のものが、京北町の周山廃寺で八葉のものが発見されていて、中国山地の東端で、このような中央がくぼんだ弁を持つ瓦が見られるのは興味あることです。

もう一つは、周縁に斜格子文をめぐる単弁十葉の軒丸瓦と重弧文の軒平瓦の組合せです。この周縁の斜格子文も珍しく、ここは鋸齒文が普通ですから、恐らく鋸齒文から変化したものと思われます。斜格子文の瓦の県内での出土例は、草津市の下物にありますし、また近江町高溝でもあるようですが、高溝のは実物が所在不明で詳細がわかりません。なお大宝寺跡からは、周縁に斜格子文のない素縁のものもあるようですし、平安時代まで下

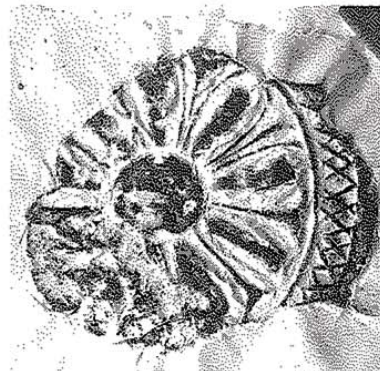
るとと思われる瓦も出土しています。

## 湖北の古瓦

岐阜県との間には伊吹山系の山山が連なり、その南端に県下一の



八島出土鬼瓦 (明石市・井内古文化研究室蔵)



高溝出土軒丸瓦  
(早崎信一氏拓)

高峰伊吹山が秀麗な姿を見せ、その南は、低地を挟んで鈴鹿山脈の北端靈仙山に続いています。この伊吹山や靈仙山は早くから山岳仏教の聖地であり、多くの寺院名を見ることができます。しかし、瓦はほとんど発見されていません。ただ、伊吹の二・三か所に古瓦出土の伝えがあり、靈仙山頂近くで瓦が発見されたとの伝聞もありますが、いずれも現存していないようで、その詳細を知ることはできません。

伊香郡では、己高山を中心とした寺々が早くから湖北の名刹として知られ、それらの寺に伝えられた仏像は、渡岸寺の十一面観音像（国宝）をはじめ湖北の仏教文化の繁栄を物語っていると言えましょう。しかし、ここでも瓦に関してはほとんど知られていませんでした。ところが、近年になって高月町の保延寺と井口で圃場整備事業に伴う遺跡調査の際に瓦が発見されました。

井口では、重弧文の軒平瓦破片が発見され、また、中房が半球状となり、蓮子の間に界線があり、その中房をとりまいて珠文帯がある、重弁の特殊な文様の軒丸瓦が発見されました。この軒平瓦と軒丸瓦とはセットにはならないようですが、中房をとりまいて珠文帯があるのは湖東地方にも見られる文様です。

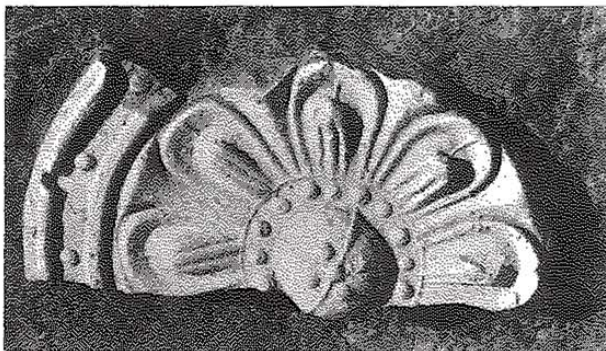
保延寺では、四重弧のうち、上の一重は普通ですが、二重目と三重目を通してX文様が線刻され、四重目は波状になって波頭部が三重目に付いているという、特殊な軒平瓦が発

見されました。このような重弧文の表面に幾何学的な線刻文を施す手法は大和などでも見受けられます。これに類するものとしては、米原町不動谷瓦窯跡から、軒平瓦の文様面に線刻があり下端を波状に抑えているものが発見されています。また、坂田郡志によりますと、近江町高溝で出土した軒平瓦の小破片がこれに類するもののようですが、現物を見ないので詳細は不明です。

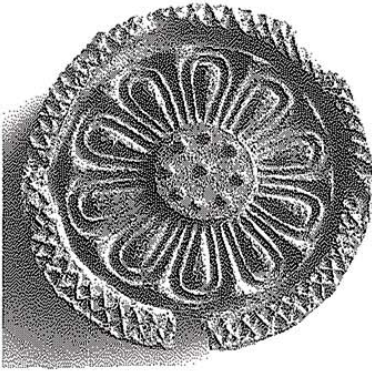
東浅井郡には、浅井十二か寺をはじめ竹生島その他に寺名は数多く残っています。また、浅井町大吉寺跡は県の史跡に指定されています。しかし、瓦の出土は比較的少なく、八島廃寺、余呉川口の各所、弓削の満願寺跡、下八木等で見られるだけです。

八島廃寺の軒丸瓦は、長浜市の大東遺跡のものと非常によく似ています。ともに単弁の八葉で、弁の彫りは深く子葉は小さく作られてあり、中房も小さく外縁には円圈がめぐっています。八島廃寺のものは、大振りの蓮子が一つ付いているだけですが、大東遺跡のものは中心の蓮子をとりまいて更に4個の蓮子があります。八島でも大東でも、この軒丸瓦とセットになる軒平瓦は重弧文のようです。なお、八島に近い木尾では、八島廃寺の瓦を焼いたと思われる瓦窯跡が発見されましたが、その詳細は不明です。

八島廃寺では、極めて特殊な鬼瓦も発見されました。鬼瓦というのは、大棟や降り棟の端を飾る特殊な瓦で、文様に鬼面が多いので鬼瓦と言われていますが、ここの鬼瓦は非常に小さく、軒丸瓦の四周に人面をあしらって方形としたものです。しかも、普通の鬼瓦のように中央に釘穴をもつとか、背面に突起をもつというような、棟に固定する細工が何も見られません。その大きさは、大津市南滋賀で出る全国でも珍しい方形軒先瓦と同じ位で、さらに南滋賀の瓦と同じように方形の筒部が付いていたようです。これは、棟の端にかぶせるようにして留めていたのではないかと



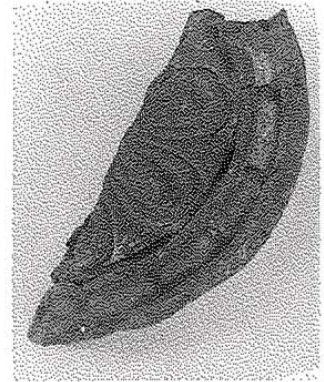
井口軒丸瓦出土状況



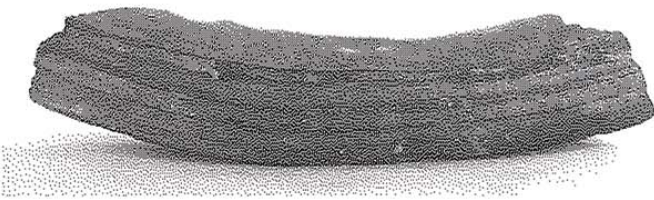
安井川出土軒丸瓦  
(新旭町教育委員会蔵)



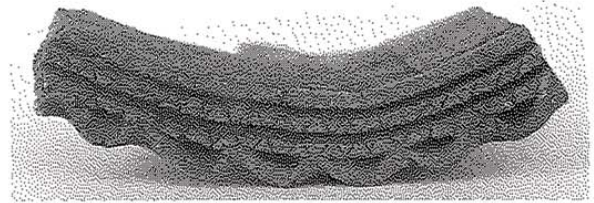
安井川出土軒丸瓦  
(新旭町教育委員会蔵)



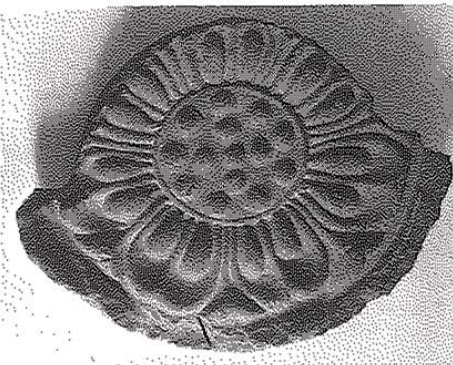
保延寺出土軒丸瓦  
(県教育委員会蔵)



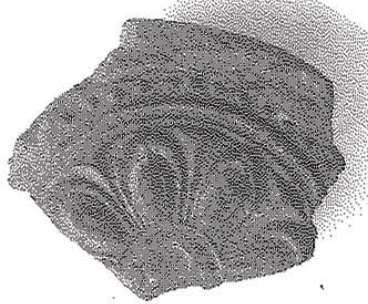
安井川出土軒平瓦 (佐藤宗男氏蔵)



保延寺出土軒平瓦 (県教育委員会蔵)



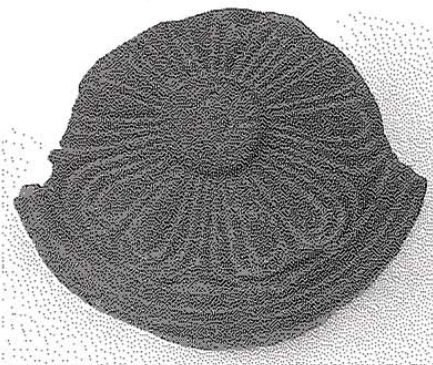
津里出土軒丸瓦  
(早崎信一氏蔵)



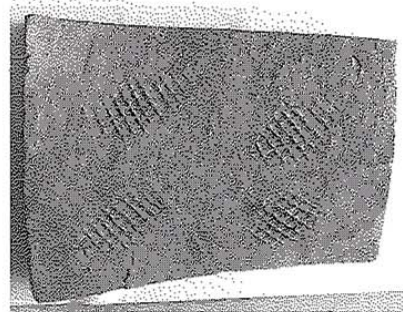
尾上出土軒丸瓦  
(浦井助左衛門氏保管)



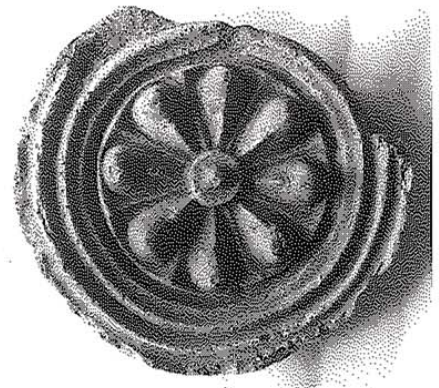
井口出土軒平瓦  
(県教育委員会蔵)



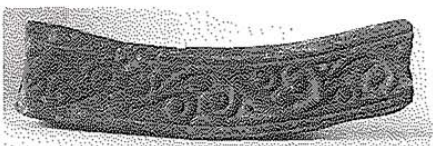
弓削出土軒丸瓦  
(びわ中学校蔵)



八島出土平瓦  
(饗場 要氏蔵)



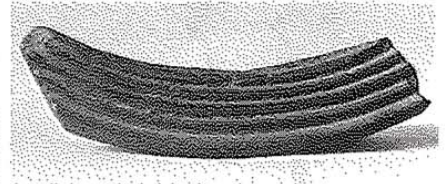
八島出土軒丸瓦  
(饗場 要氏蔵)



弓削出土軒平瓦  
(来現寺蔵)



弓削出土軒平瓦  
(来現寺蔵)



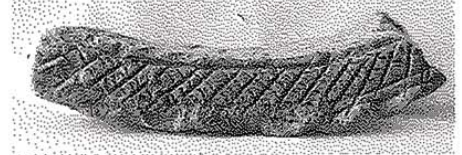
弓削出土軒平瓦  
(来現寺蔵)



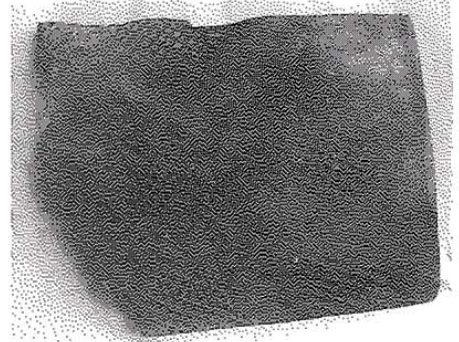
大東出土軒丸瓦  
(県教育委員会蔵)



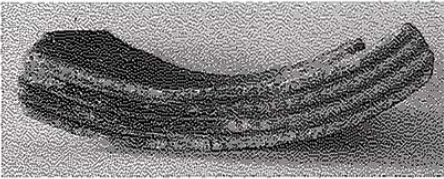
高溝出土軒丸瓦 (粕淵辰二氏蔵)



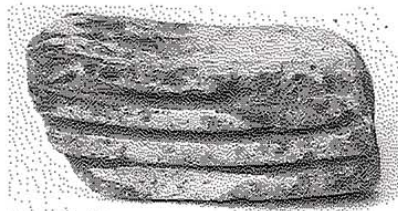
不動谷出土軒平瓦  
(米原町教育委員会蔵)



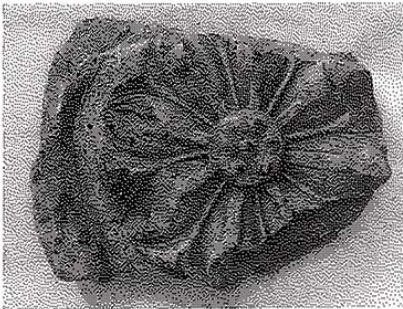
磯出土平瓦  
(磯崎文五郎氏蔵)



大東出土軒平瓦  
(県教育委員会蔵)



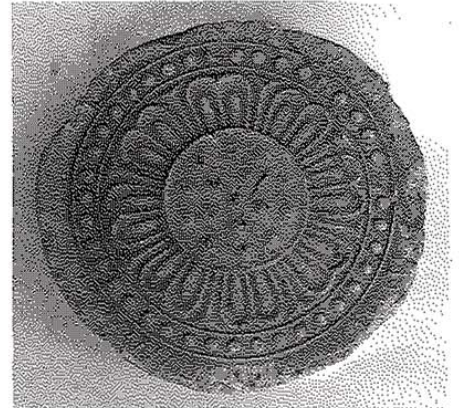
高溝出土軒平瓦 (粕淵辰二氏蔵)



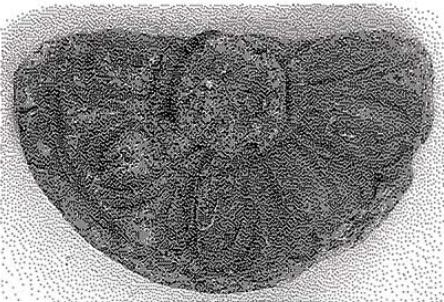
高溝出土軒丸瓦  
(粕淵辰二氏蔵)



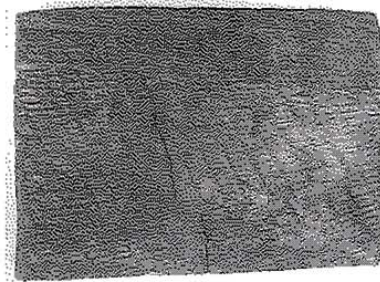
高溝出土軒丸瓦  
(粕淵辰二氏蔵)



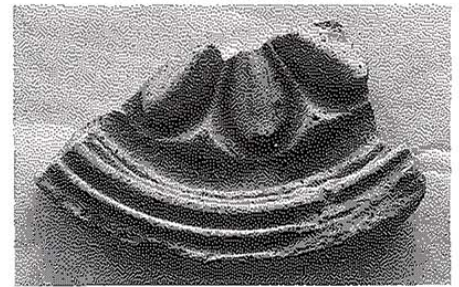
枝折出土軒丸瓦  
(米原町教育委員会保管)



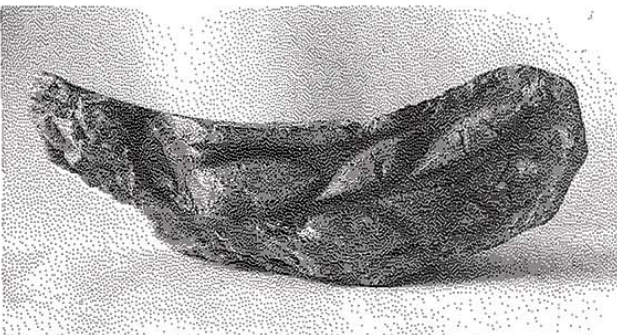
高溝出土軒丸瓦  
(県教育委員会蔵)



高溝出土平瓦  
(粕淵辰二氏蔵)



枝折出土軒丸瓦  
(醒井小学校蔵)



高溝出土軒平瓦 (早崎信一氏蔵)



枝折出土軒平瓦 (米原町教育委員会保管)

考えられています。

余呉川口には津里、尾上、今西など各所に古瓦の出土地があります。これらがどのような関係にあったのかはわかりませんが、現物が保存されている出土瓦を見ますと、津里出土の軒丸瓦は複弁七葉という弁数が特殊なものであり、尾上で発見された軒丸瓦は単弁八葉と推定され、内縁の珠文が小さくて密なもので、やや時代が下ると思われます。

びわ町弓削出土の瓦は現在びわ町の文化財に指定されていますが、この瓦を見るといろいろ種類があるようです。軒丸瓦は複弁五葉というべきでしょうか。子葉のあり方が非常に特殊であり、蓮子はすべて界線で区画されているという変わったものです。軒平瓦には重弧文があり、これだけはやや古いようですが、あとは内区の文様が特殊な瓦や、便化の進んだ唐草文の瓦など、時代が下ると思われるものです。平瓦には、変わった様式の叩き文のものがああります。なお、弓削に程近い下八木からも瓦が出土していますが、文様のあるものは拓本で知ることができるだけです。しかし、



下八木出土軒丸瓦  
(早崎信一氏拓)

弓削の瓦と基本的には同じで、ただ弁数が弓削のものと異なって複弁四葉というべきものです。長浜市と坂田郡の瓦は、

坂田郡志にその資料が多く収載されていますが、現在ではその拓本写真だけで現物が不明のものもあり、今後の調査にまたねばなりません。

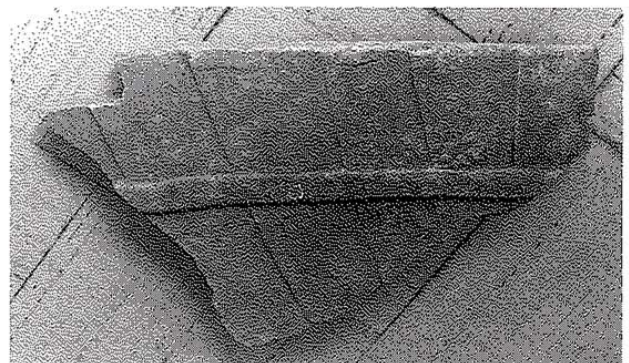
長浜市では、北陸自動車道建設工事に伴って、大東遺跡の調査が行われ多くの瓦が出土しましたが、これについては浅井町八島の瓦のところ(前ページ)で述べた通りです。なお、坂田郡志にはこのほか、珠文帯をめぐるした

軒丸瓦や平安時代に下ると思われる軒平瓦の拓本が収載されています。そのほか、新庄や榎木、上坂、布施等でも瓦の出土が伝えられています。

近江町の高溝と米原町の枝折には多くの瓦が出土していて、それらの資料からこの地の仏教文化を知ることができます。高溝は法勝寺跡と伝えられ、瓦の種類も豊富で、時代も白鳳時代から平安時代まで続くようです。軒丸瓦はほとんど単弁系の八葉ですが、中には重弁といわれる子葉が二重になったものもあります。軒平瓦には重弧文の瓦と、時代が下ると思われる特殊な文様の瓦とがありますが、後者はここだけで見られるものです。なお、ここにも変わった叩き文の平瓦があります。

米原町枝折の三大寺跡から出土した瓦は、湖北地方の他の地区では見られない複弁八葉の軒丸瓦と偏行唐草文の軒平瓦とのセットが発見されています。また、大東遺跡や八島廃寺で見られる外縁に円圏を持つ単弁系の瓦もあります。これは大東のものと同様に重弧文の軒平瓦とセット関係を持つのですが、現存の古瓦には見当たりません。ただ、坂田郡志所載の瓦の中に重弧文の小破片がありますから、一応そのようなセット関係が考えられると思います。

米原町の湖岸には磯の廃寺があり、この寺跡からは鷓尾の破片が出土しています。鷓尾は大棟の両端に取り付ける魚の尾の形をした飾りですが、現在一般的に知られているのは、

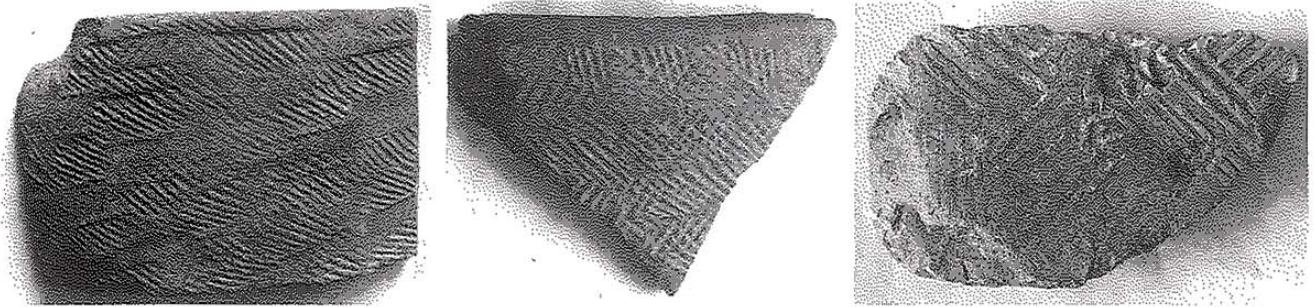


磯出土鷓尾破片(磯崎文五郎氏蔵)

奈良東大寺の大仏殿や京都の平安神宮の鶏尾などで、他ではあまり見られません。ここでは鶏尾のほかに平瓦や丸瓦も発見されていま

す。山東町では、<sup>鳥居</sup>堂谷や長久寺などで瓦の出土が伝えられていますが詳細は不明です。

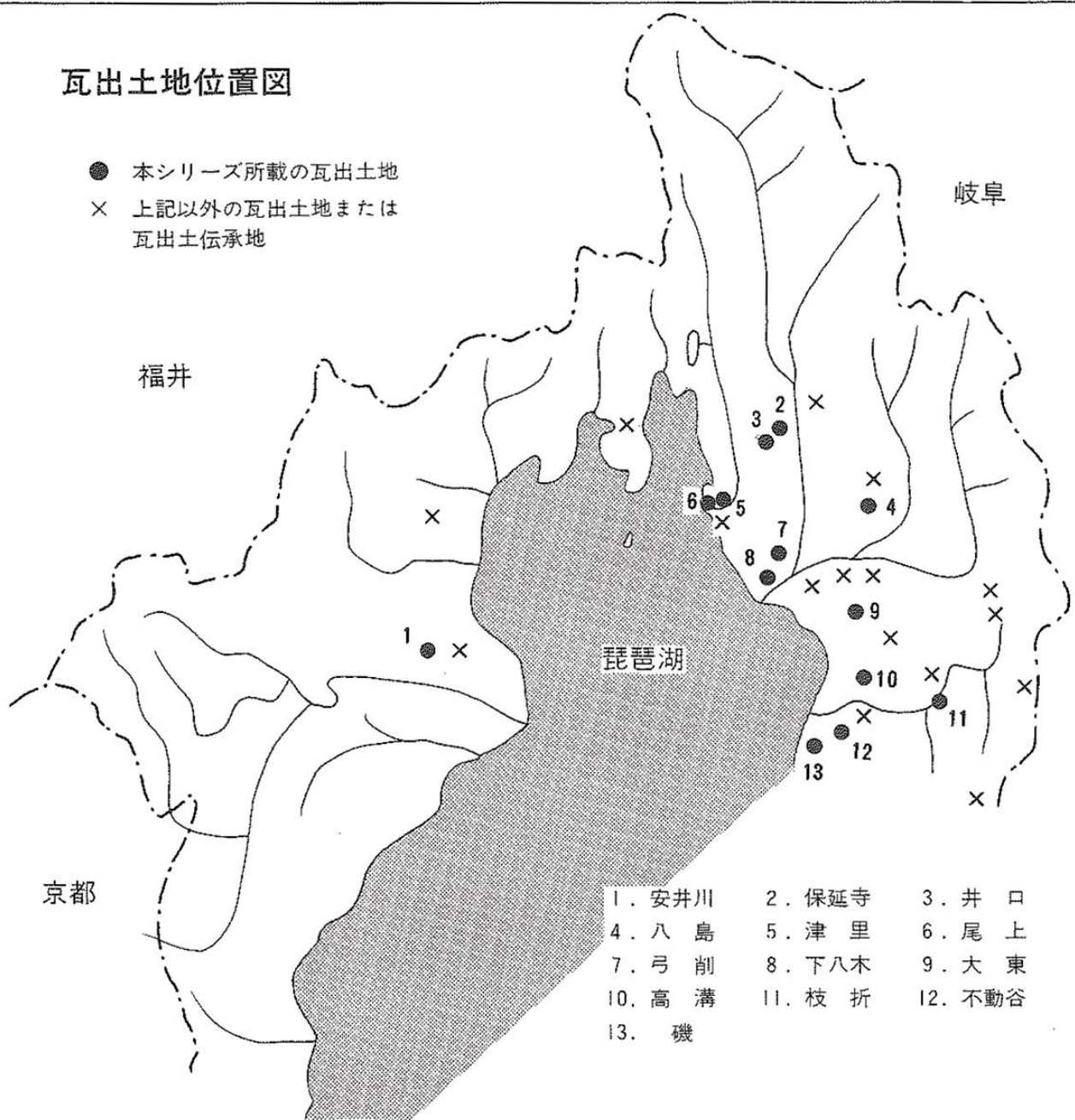
(西田 弘氏提供)



平瓦叩き文(左から) 弓削出土 弓削出土 高溝出土  
(来現寺蔵) (来現寺蔵) (早崎信一氏蔵)

### 瓦出土地位置図

- 本シリーズ所載の瓦出土地
- × 上記以外の瓦出土地または瓦出土伝承地



- |        |        |         |
|--------|--------|---------|
| 1. 安井川 | 2. 保延寺 | 3. 井口   |
| 4. 八島  | 5. 津里  | 6. 尾上   |
| 7. 弓削  | 8. 下八木 | 9. 大東   |
| 10. 高溝 | 11. 枝折 | 12. 不動谷 |
| 13. 磯  |        |         |